

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

MAY 2016

vol.25

May						
S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

◆ 関東大震災供養堂

所在地：名古屋市千種区姫池通

交通：名古屋市営バス「姫ヶ池」停 東 約 50m

覚王山日泰寺の奉安塔の入口横に、関東大震災の犠牲者を供養した供養堂があります。この供養堂の建立は「萬燈会創立二十周年記念事業」として行なわれたもので、萬燈会(後述)の働きかけにより、一口12円で350口(4,200円)の寄附が集められ、建立されています。供養堂には、関東大震災の犠牲者の遺骨とともに、寄附に応じた方々の法名を刻んだ位牌も納められ、毎月21日には、大震災の犠牲者に加え、位牌に刻まれた会員各位の祖先を慰霊する、とされています。(現在でも関東大震災の日の9月1日には御堂の扉を開けて供養が行われています。)供養堂の中には釈尊の銅像が祀られており、祭壇の右側には、入仏式における集合写真も掲げられています。

ところで、日泰寺の創立(明治27(1894)年)以来、境内の内外には各宗派の寺院が移転し、また弘法大師を祀る八十八所霊場が整備されて参詣の人も増え、電車も通じ道路も整備されてきましたが、境内にはまだ燈火の設備が不十分でした。大正10年頃は日泰寺より東の地域では電燈の設備がなく、まだランプを使用する状況だったようです。『萬燈会』は、こうした状況を改善し、覚王山日泰寺及びその東方へ電燈を施すことを目的として創設された一般人の組織で、その事業達成を記念して、「覚王山萬燈会萬霊供養記念塔」が関東大震災供養堂の横に建てられています。

関東大震災後、愛知県では15万人余りの被災者の受け入れを行っていますが、供養堂横の由来碑によれば、「日暹寺(日泰寺の当時の名称)は各講員を動員して毎日名驛頭に派し流浪せる避難民を收容宿泊せしめ救済に務たり」とあり、日泰寺でも多くの避難民の受け入れを行っていたことがうかがわれます。また、「六名を慰問使として現地に特派 東京横濱を中心に親しく数十の火葬場弔問し多数の遺骨を拾集して歸山」とされており、避難してきた方々の関係者の遺骨の収集などを目的として、6名の慰問使が関東方面に派遣されていたことがわかります。供養堂の中の祭壇の左側には、この6名の慰問使の方の写真も見ることができます。

日泰寺周辺には中区、西区、東区、南区などの方を發起人とした「関東大震災惨死者供養塔」や中区蒲焼町(現在の錦三丁目付近)青年会による「関東大震災横死者追悼之碑」もあり、当時名古屋で多くの被災者を受け入れていたことがうかがい知れます。最近では首都直下地震や富士山の噴火も心配されています。少しだけ、受け入れる心の準備をしておいてもよいのではないのでしょうか。



日暮里停車場へ殺到したる避難民
「関東大震災の絵葉書」



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

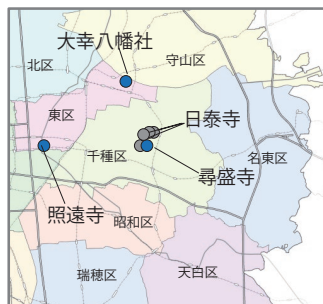
◆ 関東大震災供養堂の周辺には…

● 照遠寺

所在地：名古屋市東区東桜

交通：地下鉄東山線「新栄」駅 北西 約 300m

照遠寺は慶長 15（1610）年に清洲越しで名古屋に移ったお寺です。境内には大正 12（1923）年の関東大震災（写真左）と明治 24（1891）年の濃尾地震（写真右）の供養碑があります。



● 尋盛寺

所在地：名古屋市千種区城山新町

交通：名古屋市営バス「姫ヶ池」停 東 約 300m

尋盛寺の敷地内には濃尾大震災横死者供養塔があります。供養塔は高さ 2m 余りの角柱型で、碑面には「七千百十五人精霊 濃尾大震災横死者供養塔」と刻まれており、濃尾地震における死者を供養したものです。岐阜県海津郡西江村（現在の海津市）の女性によって建立されています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 若宮まつり

若宮八幡社の若宮まつりは、東照宮祭（名古屋東照宮）、天王祭（那古野神社）と並ぶ名古屋三大祭の一つとされ、毎年 5 月 15 日、16 日に行われています。

まつりは寛文年間（17 世紀）に始まったといわれており、最盛期には黒船車（写真右）など 7 台の山車が名古屋城内まで曳き廻され、大変な賑わいだったと伝えられています。戦災に遭うなどして、現在は福祿寿車（写真左）1 台を残すのみとなっています。

見どころは、江戸時代に作られた 4 体のからくり人形が乗るこの福祿寿車です。5 月 15 日の試楽祭では、若宮八幡社境内で囃子と山車からくりの奉納が行われ、夜は福祿寿車に提灯を飾ります。翌 16 日の例大祭では、神輿とともに那古野神社まで渡御が行われます。

5 月のあいちの花

平成 28 年 5 月のあいちの花はアジサイです。アジサイの花は、生殖能力のある両性花と雄しべと雌しべが退化した装飾花の 2 種で構成されています。丸い花の塊に見えるアジサイ（ホンアジサイ）は、ほぼ装飾花で構成されており、花に見える部分は装飾花の萼片です。野生種であるガクアジサイは両方を持ち、両性花を囲む装飾花を額縁に見立てています。



福祿寿車
「尾張の山車まつり」HP より



黒船車

● ブレイクタイム ●

♪ 揚輝荘

揚輝荘は、松坂屋の初代社長 15 代伊藤次郎左衛門祐民の別荘で、最盛期には 30 棟もの建物があり、迎賓館、社交場としても利用されていました。戦災やマンション開発などにより規模を縮小し、現在は、約 6,500 m²の北園と、約 2,800 m²の南園に、5 棟の文化財が残されています。

北園の「白雲橋」の天井には、女性の横顔にも見える竜の水墨画（祐民本人が描いたとされる）があります。南園の「聴松閣」の地下には、大人が立つて通れるほどの穴があり、以前は総延長 170m のトンネルだったそうで、名古屋空襲の際には逃げ込んだ周辺の住民の命を救ったといわれています。



白雲橋



聴松閣

「揚輝荘」HP より

『揚輝荘』

所在地：名古屋市千種区法王町 2-5-17,21

交通：地下鉄東山線「覚王山」駅 徒歩 10 分

開館時間：9:30 ～ 16:30 休館日：月曜日

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaian2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成 28 年 5 月）